

研究主題 「学び合い、考えを深め、高め合う子どもの育成」
～子ども同士の対話的コミュニケーション活動を通して～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の内容

ア 対話的コミュニケーション活動を取り入れる取り組み

- ・理論研究，講師を招聘しての学習会を実施する。
- ・算数科の活用問題への取り組みを中心に，全教育活動での場や方法，内容を工夫する。
- ・実践例のストック（実践カード）
- ・実践を公開し合う中で，授業力を高める。

イ 学習環境づくり

- ・学級力づくり…Q・Uテストの活用，学級力向上プロジェクトの活用，等
- ・学習習慣の確立…学習規律の徹底→学級，学校全体（「聴く力」を高める取り組み）

…家庭学習（家庭との連携・児童取り組み意識の向上）

(2) 研究の方法

ア 全体会，ブロック（低学年・高学年）の2部会により研究を行う。

イ 児童のコミュニケーション活動に対する意識調査を年2回行い，成果や課題を分析し，意識の変容を見取る。

ウ 学校生活全体を通して，対話的コミュニケーション活動に取り組む。

エ 児童の変容を見取る検証方法について検討する。

オ 伝え合う力を付けていくための具体的な手立てや，子ども同士が活発に討議できるような授業の工夫を考える。

カ ブロックで全体研究授業を設定する。（指導主事招聘）

キ 一人一実践の授業公開を行う。（実践紹介）

2 研究実践

(1) 理論研究【6月】

「対話的コミュニケーション活動を学力向上につなげていくための手立てについて」

「児童の変容をとらえることのできる検証方法（意識調査の形式）について」

指導 峡東教育事務所 指導主事 柴田 幸也 先生

(2) 研究授業

ア 第3学年 学級活動【10月】

「学級力を高めよう」学級における生活上の諸問題の解決

授業者 内藤 健 教諭

指導 県義務教育課 指導主事 一瀬 邦彦 先生

イ 第5学年 算数科【12月】

「四角形と三角形の面積」

授業者 那須 美佳 教諭

指導 峡東教育事務所 主幹・指導主事 小林 俊彦 先生

(3) 対話的コミュニケーション活動を学力向上につなげる実践

ア 学級力向上プロジェクトへの取り組み

・考えを受け止め合い、学習を深め合うことのできる学級集団づくり。

イ 学校生活の中での、話すこと・聴くことの日常化

・共同的な学びによる学ぶ意欲や学びの質の向上をめざす。

II 研究の成果

1 成果

- (1) 対話的コミュニケーション活動を取り入れる活動により、子ども達が聴き手を意識した分かりやすい話し方を意識するようになってきた。また、集団で学ぶ良さが実感でき、子ども達の学ぶ意欲の向上も見られた。学習だけでなく、人間関係もよりよい方向へ向かうなどの効果もあった。
- (2) 2回の研究授業では、研究テーマに沿った研究授業が行われ、活用への参考になった。
- (3) 算数の活用問題に取り組むことにより、子ども達の学習への意欲が高まった。
- (4) 児童にも分かりやすい内容のコミュニケーションアンケートを実施することにより、短期間の実践の中でも、コミュニケーション活動に対する児童の意欲・意識の向上を見取ることができた。また、教師も年間を通じた計画的な指導を意識することができた。

2 課題

- (1) 対話的コミュニケーション活動をどんな場面にどんな手段で取り入れることがより有効なのか、もっと共有・検証する必要がある。
- (2) 対話による学び合いはできているが、高学年では発達に応じてコミュニケーション活動を苦手とする子どもが増えていくので、活用が難しい面もある。
- (3) 算数科の活用問題への取り組みは、個人差の大きい教科なので、十分な指導時数の確保が必要である。
- (4) 家庭学習推進への取り組みは、個人差（家庭差）がとても大きい。保護者との情報交換や、ノートの工夫等、子ども達に「自主勉強の方法」を伝えていくことも必要である。
- (5) 一人一実践の授業公開を実施したが、時間的な都合がつかず参観できない職員が多かった。互いに参観がしやすいように、時間割の確認や事前の調整が必要である。
- (6) 研究授業の実施では、他の公開授業と重なり、授業者への負担がとても大きくなってしまった。
- (7) 学力調査・防災教育など、校内研のテーマ以外の内容が多く、授業案検討や還流報告の時間が充分確保できなかった。

III 成果物

- 1 対話的コミュニケーション活動実践カード・一人一実践授業案
- 2 児童用「コミュニケーションアンケート」（低・中・高学年版）

（研究主任 山元 和香子）